

シクロケム

γCD包接で機能向上訴求

製品と原料の販路拡大を図る

シクロケムは、ニュー
ーランド産とブラジ
ル産プロポリスをγCD
(シクロデキストリン)
で包接し、機能が向上す
ることを確認している。
そのデータを用いた提案
により、自社製品の販路
と原料供給先の開拓を推
し進めている。

プロポリスのみ投与した
群に比べて、腫瘍細胞の
増殖抑制を確認した。
この作用機序について
同社の寺尾啓二社長は、
「同プロポリス中の抗腫

瘍成分であるCAPEの
安定性をγCDが高め
た。CAPEは加水分解
しやすく、体内で腫瘍細
胞まで到達しづらい。γ
CD包接により、脂溶性

となることで腫瘍細胞の
中に侵入しやすくなり、
作用した」と説明する。
一方、ブラジル産プロ
ポリスでは、(蜂巣土見養
蜂園とドイツのキール大
学との共同研究で、γC
D包接による、炎症物質
のTNF-αの有意な減
少を確認した。同研究結
果は今春までに論文投稿
している。

する予定だという。
このほか、シクロケム
ではγCD包接プロポリ
スは、独特の後味や臭い
が低減し、超臨界抽出品
とエタノール抽出品とも
に水分散性が向上するこ
とを見出している。これ
ら知見も活用し、プロポ
リスの利用拡大に注力し

ニューーランド産プロ
ポリスでは、γCD包
接による抗腫瘍作用の増
強を確認した。産業技術
総合研究所との共同研究
では、γCDで包接した
プロポリスを腫瘍モデル
マウスに与えたところ、